

自然療法を貫いて* ゾンビーママ* 劇的に改善

35歳 女性 入院 H23.5.12~H23.8.16

	正常値	2011.4.25	5.31	6.25	7.25	2011.11.12	2013.5.20
TARC	450 以下	16269	1053 ↓	465 ↓	213 ↓	640 ↑	473 ↓
LDH	120~245	371	229 ↓	189 ↓	152 ↓	156	167
IgE	170 以下	10041	8997 ↓	10033	6843 ↓	7170 ↑	3553 ↓
好酸球	7%以下	25	15 ↓	6.3 ↓	7.2	9.7	4.4 ↓
アラキドン酸	113~238	141.3		84.3 ↓	67.3 ↓		
EPA	9~128	57.5		64.1	61.0		
EPA/アラキドン酸	0.06~0.7	0.41		0.76	0.91		

幼少期よりアトピー性皮膚炎であったが、学童期は四肢屈曲部にあるのみ。高校から悪化し、皮膚科に通院してステロイド外用治療を受け始めた。大学では改善し、顔の赤みでたまに通院する程度だった。1999年、23歳で就職後より皮膚炎悪化し、頻りに皮膚科に通い外用ステロイド、プロトピックを常用するようになった。ストレスもあり2005年退職。2007年、妊娠時から改善。2008年7月出産 その後半年で非常に悪化。それを機に2009年3月より脱ステロイドを行ったが、リバウンドで更に悪化。このときは軟膏も使用せず、自分なりの食事療法も行い半年で改善した。しかし2010年2月から再度悪化し、慢性アトピー状態となっていた。2011年3月から一段と悪化し、顔、頸部を中心に滲出液を伴う全身性の皮膚炎が生じ改善しなくなった。4.25 外来受診 5.12 入院。

経過は劇的で、入院後20日ほどで皮膚炎の指標であるTARCは15分の1に低下し、3ヶ月で正常範囲になった。

写真でも一目瞭然ですが、非常に強い皮膚炎がほぼ正常の皮膚に戻っています。患者さんは極力、内服、外用を避けていたのでバチルス入浴ケアの効果です。

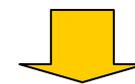
アトピー性皮膚炎は、顔では脂漏性皮膚炎様に強い分泌を伴い、掻痒が激しく異臭もあり、患者さん本人も家族も大変忍耐がいったと思われます。BSCというナチュラルなケアを信じて頑張ってきたのだと思いますが 彼女の信念が実り、すべすべの皮膚に戻って本当に嬉しそうでした。

その後 薬物療法は行わず バチルス入浴ケアを継続し皮膚炎は安定、データも安定しています。

彼女はアトピー性皮膚炎の療法に関するボランティア活動をしています。

薬物治療からナチュラルなケアへ、アトピー性皮膚炎改善の基本療法は、今後新しい段階を迎えることになりそうです。

入院時 2011.5.12



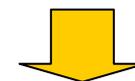
退院時 2011.8.13

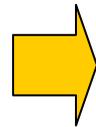


入院時 2011.5.12



退院時 2011.8.13





入院時 2011.5.12

退院時 2011.8.13